

会 議 録(要点)

会 議 名	平成28年度 第1回三芳町地域公共交通会議
開 催 日 時	平成28年11月21日(月) 午後14時30開会 午後16時10分閉会
開 催 場 所	三芳町役場 3階 301会議室
主宰者氏名	政策推進室
出席者	<p>会 長 三芳町長 林 伊佐雄 副会長 流通経済大学教授 板谷和也 委 員 三芳町区長会長 日下部辰男 委 員 株式会社ライフバス代表取締役 照井誠 委 員 三和富士交通株式会社 埼玉営業所 所長 小林克美(代理) 委 員 一般財団法人埼玉県バス協会 専務理事 鶴岡洋 委 員 関東運輸局埼玉運輸支局首席運輸企画専門官 柳瀬光輝 委 員 埼玉県川越県土整備事務所 管理担当課長 川角和嗣 委 員 埼玉県企画財務部交通政策課 交通企画・バス担当 畦地英樹 委 員 東入間警察署交通課交通規制係 大里正和 委 員 三芳町商工会会長 山田政弘 委 員 三芳町社会福祉協議会 会長 篠原拓平 委 員 三芳町政策推進室長 百富由美香 委 員 三芳町道路交通課長 田中美徳 委 員 三芳町福祉課長 三室茂浩 委 員 三芳町財務課長 大野佐知夫 委 員 三芳町都市計画課長 鈴木喜久次</p>
欠席者	<p>一般社団法人埼玉県乗用自動車協会専務理事 高原昭 三芳町交通審議会会長 忽滑谷徹雄 富士タクシー労働組合委員長 佐藤守</p>
傍聴者	なし
事務局職員	<p>政策推進担当主幹 島田高志 政策推進担当 江田直也 宮腰孝信</p>
議 題	<p>1 開 会 2 町長あいさつ 3 議題 ・今後の公共交通について 4 閉会</p>

<p>会議結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より今後の公共交通について説明を行い、これに関して各委員より意見をいただいた。
<p>配布資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議次第 ・三芳町地域公共交通会議委員名簿 ・今後の公共交通について
<p>議 題 ・ 発 言 ・ 結 果</p>
<p>1 開会</p> <p>2 町長あいさつ</p> <p>3 議事</p> <p>4 閉会</p> <p>【意見及び主な質問事項とそれに対する回答】</p> <p><デマンド交通を終了することについて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・終了にあたり利用者への周知は、説明にあった広報、ホームページのみでは足りないと考えている。その場合、運行事業者に苦情等がかかることが予想される。 <p>⇒周知については平成29年1月から3月に周知していくことを考えているが、方法については検討しているところである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デマンド交通を終了する際はしっかりと周知が必要である。登録者全員に対して三芳町の名前で葉書を送ることや、それが難しいのであれば、高頻度で利用した方や1回以上利用した方に対して送るようにすれば、運行事業者への苦情等に対する負担もだいぶ減ると考えられる。 ・タクシー利用者からデマンド交通へ移行した方が多いという説明だったが、現場としては少数ではあるが、体の不自由な方や、免許を返納して移動手段のない方もいた。こういった方々をどうしていくのか。 <p>⇒交通弱者の移動手段については非常に大事であるが、今回のデマンド交通は全町的な住民の移動確保の観点から試行的に実施したが、結果として利用が一部に限られていた。高齢者などの交通弱者対策については、全町的な交通施策とは別に考えていかなければならないと思っているが、今の時点で具体的な手法は決まっていない。</p>

・デマンド交通を終了するとなると、移動手段がなくなってしまうが、この次の移動手段が出来るまで続けていくことは出来ないのか。また、やめる理由については事務局の説明で住民は納得できるものなのか。地域公共交通会議において、やめる議論をしなくて大丈夫なのか。
⇒町としては先ほどの説明であげた理由により、終了するという決断をさせてもらったが、決定ありきではなく、地域公共交通会議等の意見を参考に今後の公共交通を考えていきたい。

〈今後の公共交通について〉

- ・デマンド交通は最終手段と思っていたので、それを行った後に、元の路線バスの再編を考えるのは難しいと思うが、そこをどのように、うまくやっていくかについて伺いたい。
⇒町ではこれに代わるものを検討している。現状でどれも具体的に説明をできる状況ではないため、次回の会議までに説明ができればと思う。
高齢者一律ではなく、困っている方への移動手段についても検討は行っている。デマンド交通に関しては最終手段というのが全国的な状況ではあるが、三芳町という地域を考えるとバスやタクシーの民間事業者がある中で、経費がかかるのは承知で交通空白地域を埋め、町民の全員が利用できるものとしてデマンド交通を行ったが、今の状況を考えると課題を解決するためには他の手段の方がいいのではないかと考えている。
- ・本当に移動に困っている人のケアについては、既存事業者に阻害しない範囲で、かつ登録者限定であれば、福祉有償運送なども可能であり、他自治体であれば社会福祉協議会が運行している場合もある。これまでは真に困っている人のことを考慮しないで、公共交通を考えてきたが、そういった方々がどこにいて、どういうニーズがあるか把握し、効率的かつニーズに合った移動手段の確保をそろそろ検討してもいい時期だと感じている。
- ・今回の試行運転で分かったのは、藤久保やみよし台などの住宅密集地には、公共交通を求めている方がたくさんいることである。ポンチョによるコミュニティバスがこの地域の最適解とは限らないので、ゼロベースで他の様々な方法を考えていくこととも必要だと感じる。

4 閉会